

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組概要】

番号	2-1-1(バス)		分類	共通	担当課	運輸サービス課		戦略	快適なお客さまサービスの提供		年度	R6	
取組	乗車サービスの向上					個別取組	接客教育の充実による接客サービスの向上						
概要	接客研修や職員モニター制度等を実施し、バス運転手や駅務員がお客さまの視点に立った接客対応、案内を行えるよう育成することで、接客サービスの向上を目指します。 研修内容については、接客に対するお客さまの声等を元に、より効果的なものとなるよう見直していきます。												
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12			
予定	・研修実施 ・令和4年度以降の研修企画	接客サービス向上研修実施			・令和7年度以降の研修企画	接客サービス向上CS研修実施							
これまでの取組み状況	【令和3年度】 ・接客接客向上（CS）研修の前回カリキュラム（令和元～3年度）修了 ・「接客だより」の発行 ・接客・接客コンクールの実施 ・市バス添乗モニターの実施 【令和4年度】 ・入れおよび契約 ・令和4年度接客接客向上（CS）研修 ⇒国土交通省において高齢者の車内転倒抑止目標を掲げていることから、当局でも地域包括支援センターの職員に依頼し、高齢のお客さまや障害のあるお客さまへの対応について、バリアフリー的視点での新カリキュラムによる研修を実施。 ・「接客だより」の発行 ・接客・接客コンクールの実施 《営業所ごとの取組》 ・川内営業所→アンガーマネジメント研修の実施 ・長町営業所→接客接客向上（CS）研修フォローアップ ・実沢営業所→接客接客向上（CS）研修フォローアップ ・市バス添乗モニターの実施 【令和5年度】 ・令和5年度接客接客向上（CS）研修 ・「接客だより」の発行 ・接客・接客コンクールの実施 ・市バス添乗モニターの実施												

【年度計画及び実績】

課題	・全乗務員が受講修了まで3年を要するため、新たな課題が発生しても途中でカリキュラムに盛り込むことができない。 ・令和4年度に新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期した受講対象者について、令和6年度中に受講できるよう回数を増やし実施をする必要がある。 ・2024年の改善基準告示等により、勤務作成が困難とならないよう各回の受講人数の調整や研修の回数を増やしていく必要がある。				
実施内容	・令和4年度から3年間をかけて、全乗務員を対象とした接客サービス向上研修を実施する。 ・接客接遇向上（CS）研修、年間の日程終了後に検証を行い、乗務員からのアンケート結果や社会的に話題となった課題等を踏まえ、次年度のカリキュラムに反映させることができるか検討しながら実施する。 ・国土交通省において車内転倒抑止目標を掲げていることから、当局でも地域包括支援センターの職員に依頼し、高齢のお客さまへの対応について研修を企画し、実施する。 ・障害のあるお客さまへの対応についてもバリアフリー的視点から研修を企画し、実施する。 ・以上の研修の実施により、乗務員の接客サービスに対しての意識向上を図る。		数値目標	【接客サービス向上研修】 年間15回実施 【接客だよりの発行】 年間12回以上 【接客・接遇コンクール】 年1回 【市バス添乗モニター件数】 年間2,000件以上	
	予定		実績		
上期	・接客サービス向上研修(6回)		【接客サービス向上(CS)研修の実施】 第1回 6月 11日 3名 第2回 6月26日 4名 第3回 7月 11日 4名 第4回 7月26日 0名 第5回 8月 28日 5名 第6回 9月10日 5名 計 6回実施 21名受講 ・直営営業所内勤者 1名受講 ・委託先事業所内勤者 3名受講 ・「接客だより」4回発行 ・地域包括支援センターとの意見交換会(5/28) ・令和7年度以降の研修について打合せを実施		
下期	・接客サービス向上研修(9回) ・営業所、出張所対抗接客、接遇コンクール10/1～11/30		【接客サービス向上(CS)研修の実施】 第7回 9月25日 4名 第8回 10月10日 5名 第9回 10月22日 2名 第10回 11月6日 2名 第11回 11月19日 3名 第12回 12月6日 6名 第13回 12月13日 3名 第14回 1月9日 2名 第15回 2月13日 2名 計 9回実施 29名受講 ・委託先事業所内勤者 2名受講 ・「接客だより」9回発行 ・地域包括支援センターとの意見交換会(10/21) ・令和7年度以降の研修について打合せを実施 ・10月1日～11月30日を対象期間とし営業所対抗接客接遇コンクールを実施 ・10月10日～10月20日を接客サービス強化月間に設定 ・10月15日を接客サービス強化日に設定し街頭指導を実施		
定期的な取組み					

【令和6年度評価】

評価	○	進捗状況・評価の説明	・接客サービス向上研修については、3年かけて全乗務員が受講することとし、令和6年度は最終年度として計15回実施したが、未受講者が出る結果となった。未受講者については、次年度に集合研修等を実施することにより、全乗務員に到着実に必要な知識を伝達する。 ・接客だよりの発行、接客・接客コンクール、市バス添乗モニターのいずれも数値目標を達成することができた。 ・市バス添乗モニター平均点については、上期の状況が低調であったため、10月に接客サービス強化月間や強化日を設定したことで上期より改善はしたものの、年間目標の37.5点に対し、36.3点であった。	数値目標の達成状況	・接客サービス向上研修は15回(未受講者あり) ・「接客だより」13回発行 ・市バス添乗モニター件数4148件 ・「接客・接客コンクール」(対象期間:10月1日～11月30日) 最優秀 七北田出張所 第二位 川内営業所 第三位 白沢出張所
次年度に向けて	・新たな取り組みとした研修会の開催を行うとともに、委託事業所についても、同様の研修実施を依頼し、各営業所等での評価の平準化を図っていく。 ・全乗務員にとって必要な知識・情報はタイムリーに学ぶことができる機会を設けていく。				

【備考】

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-1(地下鉄)	分類	共通	担当課	安全推進課、駅務サービス課、運転課	戦略	快適なお客さまサービスの提供	年度	R6		
取組	乗車サービスの向上			個別取組	接客教育の充実による接客サービスの向上						
概要	接客研修や職員モニター制度等を実施し、バス運転手や駅務員及び運転士がお客さまの視点に立った接客対応、案内を行えるよう育成することで、接客サービスの向上を目指します。 研修内容については、接客に対するお客さまの声等を元に、より効果的なものとなるよう見直ししてします。										
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
予定	サービス向上(接客)研修の実施										
						令和8年度以降の 研修計画策定	サービス向上(接客)研修の実施				
	職員モニター制度の実施										
		集計作業のデジタル 化を検討	集計作業のデジタル 化の試験運用								
これまでの 取組み状況	(◆3-2-1シートに関連記載あり) ・令和3年度は鉄道両部係長以下の職員を対象にサービス向上研修(バリアフリー)をWeb会議形式で5日間実施し、理解を深めた。 ・「駅業務モニター制度」(※1)によるモニターの意見を駅係員に周知し、接客の向上に活用している。 また、モニター結果は「egao通信」(※2)により活動状況を含めて展開している。 ・令和4年度は鉄道両部係長以下職員で令和3年度未受講者(43名)を対象にサービス向上研修(バリアフリー)をWeb会議形式で1日実施し、理解を深めた。 ・令和5年度は駅務サービス課・運転課・総合指令所の職員(13名)を対象にサービス向上研修(異常時案内放送)を1日実施し、対応力強化を図った。										

【年度計画及び実績】

課題	モニターの意見を職員指導に反映させること。		
実施内容	・駅業務モニター制度を継続し、接遇向上を図る。 ・「egao通信」の定期的な発行。 ・各種研修等の受講を通し、車内案内放送を含めた接遇向上を図る。 ・仙台市交通局高速鉄道安全基本計画に基づき(5ヶ年)、鉄道管理部、鉄道技術部全職員を対象にサービス向上(接遇)研修を実施する。 ・外部講師による研修を基本とするが、様々な方法を検討する。	数値目標	・駅業務モニター制度を通年実施する。 ・「egao通信」を概ね四半期ごとに発行する。 ・サービス向上研修を年間1回実施する。
	予定	実績	
上期	・集計処理作業のデジタル化の運用 ・「egao通信」の発行	・7月より集計処理作業を完全デジタル化して運用開始。 ・「egao通信」の発行(6月、9月)	
下期	・集計処理作業のデジタル化の運用 ・「egao通信」の発行 ・各種研修の受講や定期教育内での接遇に関する教習を実施し、車内案内放送を含めた接遇向上を図る。 ・サービス向上研修	・「egao通信」の発行(12月、2月) ・外部講師を招き、鉄道管理部・技術部職員22名を対象に、サービス向上研修「認知症サポーター制度」を実施。(10月30日) ・新たな「せんだいオンライン申請サービス」運用開始に伴い、集計処理作業の調整を図り、運用を開始(1月) ・サービス向上研修(異常時における臨機応変なアナウンス)を実施。(1月24日)	
定期的な取組み	・駅業務モニター制度 ・乗務助役添乗時における適切な車内放送等の確認及び指導	・駅業務モニター制度を実施し、接遇の向上を図った。 ・乗務助役の添乗時に適切な車内案内等の確認を行い、必要に応じて指導を行った。 ・鉄道両部課長会において、月ごとにまとめた「お客様の声」を共有している。	

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・サービス向上研修「認知症サポーター制度」を実施したことによって、相手に寄り添った対応をすることへの理解を深めた。 ・サービス向上研修「異常時の臨機応変なアナウンス」を実施したことで、異常時において旅客が特に必要としている情報について理解が深まった。 ・駅業務モニター制度の集計処理作業をデジタル化することで業務の効率化を図った。 ・駅業務モニター制度を通年実施し、職員の接客向上を図っている。 ・乗務助役添乗時における適切な車内放送等の確認及び指導を実施した。	数値目標の達成状況	・サービス向上研修を2回実施した。 ・駅業務モニター制度を通年実施した。 ・「egao通信」を年4回発行した。
次年度に向けて	・サービス向上研修の実施内容・時期について検討。 ・「駅業務モニター制度」を継続して実施し、集計結果を活用することで接客向上を図る。 ・各種訓練や研修等への参加を通じ、接客サービス向上に取り組む。 ・さらに伝わりやすい車内案内放送となるよう、乗務助役添乗時における確認及び指導を継続して取り組む。				

【備考】

※1「駅業務モニター制度」とは、交通局職員が駅係員の日頃の業務や身だしなみなどを確認し、接客向上に活用する取り組みです。
 ※2「egao通信」とは課内の取組み等を紹介する交通局内機関誌です。

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-2(バス)	分類	共通	担当課	運輸サービス課			戦略	快適なお客さまサービスの提供		年度	R6
取組	乗車サービスの向上				個別取組	バス運行管理者・駅務係員のサービス介助資格取得						
概要	バスの運行管理者が、高齢者や障害のある方等の配慮が必要なお客さまに対して適切な対応、ご案内のサービスを提供できるようサービス介助資格(※1)の取得を推進します。											
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
予定	研修の実施及びサービス介助士資格の取得推進											
これまでの取組み状況	【サービス介助資格取得】 ・令和4年度、各営業所内勤者1名、業務課職員1名の4名がサービス介助資格取得。 ・令和5年度、各営業所内勤者2名、業務課職員1名の7名がサービス介助資格取得。業務課職員1名更新。											

【年度計画及び実績】

課題	サービス介助資格取得者はもとより、未取得者についても必要な知識や技術を習得し、パリアフリーに係るサービスを均一に提供させる情報共有と伝達研修が課題となる。		
実施内容	- 高齢者や障害のある方を手伝うときの「おもてなしの心」と「介助技術」の伝達研修の実施。 - サービス介助士資格講習の受講を促し、サービス介助士(※1)資格取得を推進させる。 - お客さまへのサービス向上のため、資格取得した副所長・運行管理者は乗務員に対し配慮が必要なお客さまへの適切な対応方法を適宜、指導・助言する。	数値目標	サービス介助士資格取得(各営業所・運輸サービス課・各2名)
	予定	実績	
上期	・サービス介助士資格講習受講	・サービス介助士資格取得のため各営業所の5名について、受講申請を行った。 (川内営業所2名、長町営業所2名、実沢営業所1名)	
下期	・サービス介助士資格講習受講	【サービス介助士資格取得】 10月17日、各営業所の管理要員4名が新規に資格を取得した。 - 予定していた1名は次年度取得に振り替えた。	
定期的な取組み	・職場研修会・スキルアップ研修会(配慮が必要なお客さま等への適切な対応方法)での伝達研修	サービス介助士資格取得	

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	- 令和6年度については、各営業所の管理要員5名について新たに資格取得に向け取り組みを行った。 - 研修内容を踏まえ、必要に応じて管理要員や乗務員への助言等を行い、配慮が必要なお客さまに対して適切な対応を取ることができた。	数値目標の達成状況	- 各営業所の管理要員4名が新規に資格を取得し、資格取得者は以下の通りとなり目標を達成した。 - 川内営業所 3名 - 長町営業所 3名 - 実沢営業所 4名 - 運輸サービス課 2名
次年度に向けて	・サービス介助士の資格者を増やすことで、営業所で実施するスキルアップ研修等で伝達研修を行うなど活用を検討する。				

【備考】

※1「サービス介助士」とは、障害者差別解消法の正しい理解、お客さまサービスの対応力向上を目的とした研修を受講し、高齢者や障害者を手伝うときの「おもてなしの心」と「介助技術」を学び、相手に安心していただきながら手伝いができる人のことです。

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-2(地下鉄)		分類	共通	担当課	駅務サービス課		戦略	快適なお客さまサービスの提供		年度	R6
取組	乗車サービスの向上				個別取組	バスの運行管理者・駅係員のサービス介助資格取得						
概要	駅係員が、高齢者や障害のある方等の配慮が必要なお客さまに対して適切な対応、ご案内のサービスを提供できるようサービス介助資格(※1)の取得を推進します。											
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
予定	サービス介助士資格取得を継続的に推進											
これまでの取組み状況	仙台市交通局バリアフリー特定事業計画「心のバリアフリー化推進事業」の取り組みとして、平成18年から駅務助役全員のサービス介助士資格取得を目指しており、令和3年度は4名、令和4年度は5名、令和5年度においては2名の駅係員がサービス介助士の資格を取得した。令和3年度は仙台市社会福祉協議会、令和5年度は日本盲導犬協会から講師を招きバリアフリー研修を実施している。(◆4-2-2シートに関連記載有) また、令和5年9月1日～10月31日に、高齢者や体の不自由な方等、配慮が必要なお客さまへより積極的な声かけを行うことを目的に強化期間を設け、「声かけ・見守り運動」を実施した。											

【年度計画及び実績】

課題	資格を有していない駅係員に対する知識・技術の伝達を行う必要がある。		
実施内容	・サービス介助士の新規資格取得。 ・資格を取得した駅務助役は、資格を有していない駅係員に対し、必要な知識や技術などを伝達する。 ・強化期間を設けた「声かけ・見守り運動」の実施。 ・外部から講師を招き、バリアフリーの研修を実施する。	数値目標	駅務助役2名が新たに資格を取得する。
	予定	実績	
上期	・「声かけ・見守り運動」の実施	4月 「春の全国交通安全運動」に合わせて「声かけ・見守り運動」を実施 9月 東日本旅客鉄道と共催し、「声かけ・見守り運動」を実施	
下期	・サービス介助士新規資格取得 ・バリアフリー研修の実施	12月 駅務助役4名がサービス介助士資格取得 2月 仙台市社会福祉協議会の資料を基に、駅務助役が講師となってバリアフリー研修を実施した。(◆4-2-2に関連記載あり)	
定期的な取り組み	サービス介助士の新規資格取得及び更新	サービス介助士の資格を有した駅務助役が巡回時等に駅係員へ介助技術等の知識を伝達した。	

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・サービス介助士の資格を4名が取得し、改めてOJTにて駅係員へ取扱いを伝達した。 ・声かけ・見守り運動を年2回実施した。 ・バリアフリー研修を実施した。	数値目標の達成状況	・駅務助役4名が新たに資格を取得した。
次年度に向けて	・サービス介助士の資格を取得していない駅務助役が資格を取得し、高齢者や障害のある方等、配慮が必要なお客様に対して適切な対応、ご案内等のサービスを提供できるよう駅係員へOJT等で伝達する。				

【備考】

※1「サービス介助士」とは、障害者差別解消法の正しい理解、お客さまサービスの対応力向上を目的とした研修を受講し、高齢者や障害者を手伝うときの「おもてなしの心」と「介助技術」を学び、相手に安心していただきながら手伝いができる人のことです。

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-3(全体)		分類	共通	担当課	経営企画課、運輸サービス課、営業課		戦略	快適なお客さまサービスの提供		年度	R6						
取組	乗車サービスの向上				個別取組	利便性の高い乗車券制度の実施												
概要	お客さまにとって利便性の高い運賃制度や乗車券の販売を実施していきます。また、MaaSの推進も念頭に置き、バス・地下鉄共通一日乗車券や、スマートフォンを用いた電子乗車券等、お客さまに魅力を感じていただける新たな運賃制度や乗車券を検討していきます。																	
年次計画	R3	R4		R5		R6		R7		R8		R9		R10		R11		R12
予定	運賃制度の見直しの検討・実施																	
	新券種(電子化含む)の検討・実施																	
これまでの取組み状況	・仙台まるごとバス、SENDAI AREA PASSの継続的な運用により、仙台エリア旅行者の交通サービスの充実を図ってきた。 ・東西線結節周辺バス均一運賃(100円)、市中心部地下鉄均一運賃(210円)については、一般会計からの補助金を受け実施している。 ・仙台MaaSへも参画し、「120円パッ区一日乗車券」や「地下鉄一日乗車券」を実証実験として販売することにより、乗車券のオンライン購入のニーズや二次元コード乗車券の実用性など調査検討を行っている。 【令和3年度】 ・仙台MaaSにおいて、新券種「120円パッ区一日乗車券」の実証実験を実施(◆3-1-2、3-2-4に関連記載あり)。 【令和4年度】 ・仙台MaaSにおいて「120円パッ区一日乗車券」の実証実験を継続(◆3-1-2、3-2-4に関連記載あり)。 ・仙台MaaSにおいて「地下鉄一日乗車券」を実証実験として販売(9月30日～10月2日)(◆3-2-4に関連記載あり)。 【令和5年度】 ・仙台MaaSにおいて「120円パッ区一日乗車券」を本格実施(◆3-1-2、3-2-4に関連記載あり)。 ・仙台MaaSにおいて「緑化フェア周遊バス」を期間限定販売(4月17日～6月18日)(◆3-2-4に関連記載あり)。 ・世代別の乗車数向上策の検討(◆2-1-8、3-1-1、4-1-1、4-1-21に関連記載あり)																	

【年度計画及び実績】

課題	・市バス一日乗車券(市内券・近郊券)について、利用可能範囲が分かりづらい。 ・一日乗車券等について、定期券発売所や券売機まで行かないと購入できないため、電子化によりオンラインで購入できるようにする等の検討が必要。 ・仙台MaaSに搭載した新券種について利用者の認知度が低く、販売枚数が伸び悩んでいる。 ・自家用車が大半を占める子ども連れの移動について、自家用車等から公共交通への転換を促す取組みが必要。									
実施内容	・利便性の高い新券種や仙台市のイベントと連携した新券種を検討し、仙台市まちづくり政策局が進める仙台MaaS(※2)において、実証実験等を通し乗車券電子化の拡充を図る。 ・仙台MaaSに搭載済みの券について、仙台MaaS事務局とも連携しながら、各種イベント等への参加やPRを行うことで認知度の向上を図る。 ・利用促進につながる新たな運賃制度や、既存乗車券の見直しの検討を行う。 ・子ども連れをターゲットとした土日祝日限定小児運賃無料化の実証実験(※3)を期間限定で実施する(◆2-1-8、3-1-1、4-1-1、4-1-21に関連記載あり)。					数値目標				
	予定					実績				
上期	・4月～5月 小児運賃無料化実証実験【新】 ・5月 「Pokémon GO Fest 2024:仙台」地下鉄時間券の販売【新】 ・5月～6月 東北絆まつり応援地下鉄時間券の販売【新】 (◆3-1-1、3-2-3(地下鉄)、3-2-4に関連記載あり) 「Pokémon GO Fest 2024:仙台」期間限定るーぶる仙台・地下鉄共通一日乗車券の販売(◆4-1-3に関連記載あり) ・6月～9月 新券種の検討 新運賃制度の検討・既存券種の見直しの検討					・4月～5月 小児運賃無料化実証実験【新】 ・5月 「Pokémon GO Fest 2024:仙台」地下鉄時間券の販売【新】 ・5月～6月 東北絆まつり応援地下鉄時間券の販売【新】 (◆3-1-1、3-2-3(地下鉄)、3-2-4に関連記載あり) 「Pokémon GO Fest 2024:仙台」期間限定るーぶる仙台・地下鉄共通一日乗車券の販売(◆4-1-3に関連記載あり) ・6月～9月 新券種の検討 新運賃制度の検討・既存券種の見直しの検討 小児運賃無料化実証実験【新】(12月まで) ・9月～				
下期	・9月～12月 小児運賃無料化実証実験【新】 ・10月～3月 新券種の販売における各種調整 新運賃制度・既存券種の見直しにおける各種調整					・9月～12月 小児運賃無料化実証実験【新】 ・10月～3月 新券種の販売における各種調整 新運賃制度・既存券種の見直しにおける各種調整				
定期的な取組み	仙台まるごとバス、SENDAI AREA PASS等の継続運用とともに、ニーズの変化に応じた制度的、技術的検討を行う。					仙台まるごとバス、SENDAI AREA PASS等の継続運用とともに、ニーズの変化に応じた制度的、技術的検討を行った。				

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	【小児運賃無料化実証実験】 小児運賃無料化実証実験をGW期間と秋季の2回にわたり実施した。見込みよりは少なかったものの、バス・地下鉄をあわせて延べ約102千人の方にご利用いただいた。 【るーぶる仙台・地下鉄共通一日乗車券】 「Pokémon GO Fest 2024:仙台」が開催された5月30日～6月2日の4日間限定で、同フェスオリジナルデザインの「るーぶる仙台・地下鉄共通一日乗車券」を地下鉄仙台駅の特設ブースで販売した。 ※作成枚数…4,000枚、販売枚数…2,265枚	数値目標の達成状況
次年度に向けて	・R7年度にも小児運賃無料化実証実験を予定しており、より多くの方に利用いただけるよう、引き続き周知広報に努める。 ・仙台MaaSを活用しながら、利便性が高い新たな乗車券の企画・販売を行う。			

【備考】

※1 現在実施している「お得な運賃制度・乗車券」については、下記リンクよりご確認ください。	
仙台市交通局ウェブサイト「お得な運賃制度・乗車券」	
※2 「仙台MaaS」とは、仙台市が令和3年10月より実施している、スマートフォン等で目的地までのルートや移動手段、さらには街なかの飲食店・イベント等の検索・予約・決済に至るまでを一括して行える仕組みです。詳しくは、下記リンクよりご確認ください。	
仙台MaaS(外部サイトを表示します)	
仙台市ウェブサイト「仙台MaaS推進」(外部サイトを表示します)	
※3 土日祝日限定小児運賃無料化実証実験については、下記リンクよりご確認ください。	
仙台市交通局ウェブサイト「小児運賃無料化実証実験」	

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-3(学都)	分類	共通	担当課	経営企画課	戦略	快適なお客さまサービスの提供	年度	R6	
取組	乗車サービスの向上				個別取組	利便性の高い乗車券制度の実施(学都仙台フリーパス)【追加】				
概要	お客さまにとって利便性の高い運賃制度や乗車券の販売を実施していきます。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定	学都仙台フリーパスの販売継続、販売状況の分析									
	販売促進ポスターの作成、学校向けチラシ送付									
これまでの取組み状況	学生の公共交通機関の利用促進や、学生の交通事故防止と環境負荷の低減を目指し、「学都仙台フリーパス」(※1)の販売を継続してきた。「学都仙台フリーパス」の販売枚数を増やすため、販売状況を分析し、販売実績の高い学校に対して購入案内のチラシを送付しているほか、地下鉄駅構内や学校等施設でのポスター掲出、地下鉄駅構内のデジタルサイネージでの動画掲出を行っている。また、キャンパス移転した東北学院大学と連携し、令和4年度・5年度に東北学院大学生向けの案内チラシを作成・配布したほか、令和5年度には東北学院大生協とも連携し、一人暮らしの家探しをする学生向けにもチラシを配布した(◆4-1-2シートに関連記載あり)。									
	【学都仙台フリーパス販売枚数推移(1ヶ月換算 年計)】									
	令和元年度:256,274枚(1ヶ月あたり 21,356枚)(参考)									
	令和3年度 :183,898枚(1ヶ月あたり 15,325枚)									
	令和4年度 :213,351枚(1ヶ月あたり 17,780枚)									
令和5年度 :238,134枚(1ヶ月あたり19,845枚)										

【年度計画及び実績】

課題	・学都仙台フリーパスの販売枚数が新型コロナウイルス感染拡大により減少し、コロナ前の水準に戻らない状況が続いている。 ・都市整備局主導の(せんだいバスFREE+)が、令和6年10月より制度開始を予定しているため、広報等について、都市整備局と連携して行っていく必要がある(◆3-1-1に関連記載あり)。【新】 ・せんだいバスFREE+は学都仙台フリーパスと販売窓口が異なるため、円滑な導入に向けて、分かりやすい広報を行う必要がある。			
実施内容	・毎月フリーパスの販売枚数について確認し、分析を行う。 ・学校と連携し、効果的な広報活動を行うことで販売枚数の回復を図る。 ・せんだいバスFREE+開始に伴い、都市整備局と連携して、販売窓口等の広報を行っていただくほか、IC乗車券システムの改修を行う(◆1-3-1、3-1-1に関連記載あり)。【新】			
	数値目標			
	前年度を上回る販売枚数を目指す。			
	予定			
上期	4月 ・学都仙台フリーパス購入キャンペーンを実施【新】 (3月18日～4月30日の期間限定で購入者に抽選で交通局オリジナルグッズプレゼントするもの) 4～6月 ・高校や大学のオープンキャンパスに向け、広報の仕方を検討する。 4～9月 ・せんだいバスFREE+導入に向けたIC乗車券システムの改修 7～8月 ・大学オープンキャンパス時期に地下鉄駅構内のデジタルサイネージで学都仙台フリーパスの利用促進動画を掲出する。			
下期	10月 ・せんだいバスFREE+開始【新】 1月 ・高校や大学の合格発表に向け、広報の仕方を検討する。 2～3月 ・学都仙台フリーパスポスターを作成し、市内の学校へ一括送付する。 ・大学の合格発表時期に地下鉄駅構内のデジタルサイネージで学都仙台フリーパスの利用促進動画を掲出する。			
定期的な取組み	・学都仙台フリーパスの販売枚数について分析を行う(毎月)。 ・せんだいバスFREE+開始に伴い、都市整備局と連携して、販売窓口等の広報を行うとともに、IC乗車券システムの改修を行う。			
	実績			
上期	4月 ・学都仙台フリーパス購入キャンペーンを実施 (3月18日～4月30日の期間限定で購入者に抽選で交通局オリジナルグッズをプレゼントを送付した) 4～6月 ・高校や大学のオープンキャンパス開催が集中する時期に合わせて地下鉄駅構内デジタルサイネージ掲出を実施することとした。 4～9月 ・せんだいバスFREE+導入に向けたIC乗車券システムの改修 6～8月 ・大学オープンキャンパス時期に地下鉄駅構内のデジタルサイネージで学都仙台フリーパスの利用促進動画を掲出した。(◆4-1-2に関連記載あり)			
下期	10月 ・せんだいバスFREE+開始【新】 1月 ・高校や大学の合格発表に向け、地下鉄駅構内デジタルサイネージで利用促進動画を掲出することとした。 2～3月 ・学都仙台フリーパスポスターを作成し、市内の学校へ一括送付した。 ・大学の合格発表時期に地下鉄駅構内のデジタルサイネージで利用促進動画を掲出した。			
定期的な取組み	・学都仙台フリーパスの販売枚数について分析を行った(毎月)。 ・都市整備局と連携し、仙台市公式LINE等で、学都仙台フリーパスと共にせんだいバスFREE+の広報を実施した。			

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・学都仙台フリーパス販売校に利用促進ポスターを送付したほか、オープンキャンパス、合格発表時期に合わせてデジタルサイネージにて利用促進動画を掲出した。 ・東北学院大学と連携した学都仙台フリーパスの利用促進広報を行った。(◆4-1-2に関連記載あり) ・せんだいバスFREE+と連携した広報を実施した。	数値目標の達成状況	学都仙台フリーパスの販売枚数(1ヶ月換算)は、前年度比105.5%(251,261枚)となった。(R5:238,134枚)
次年度に向けて	・学都仙台フリーパスのさらなる利用促進に向け、引き続き販売状況について分析を行っていくとともに、効果的な広報・販売促進について検討する必要がある。 ・東北学院大学向けの広報について次年度も引き続き検討を行っていく。(◆4-1-2に関連記載あり)				

【備考】

- ※1 「学都仙台フリーパス」については、下記リンクよりご確認ください。
[仙台市交通局ウェブサイト【学都仙台 市バス・地下鉄フリーパス】](#)
- ※2 学校との連携については、下記リンクよりご確認ください。
[仙台市交通局ウェブサイト【学生向けの公共交通機関利用促進について】](#)

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-4(全体)	分類	共通	担当課	総務課、経営企画課、営業課	戦略	快適なお客さまサービスの提供	年度	R6	
取組	乗車サービスの向上			個別取組	「知りたい」に答える情報提供の充実					
概要	交通局ウェブサイトやX(旧Twitter) (@sendaishi_kotu) 等を活用し、市バス・地下鉄の運行情報を手軽にわかりやすく提供するほか、「せんだい市バス・地下鉄ナビ」「どこバス仙台」の検索機能の改善を検討します。また、オープンデータの推進により、民間の経路検索ウェブサービスやスマートフォンアプリにおける市バス・地下鉄情報の充実を促していきます。このほか、経営状況や本計画に基づく取組みの進捗状況についても丁寧に情報発信していきます。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定	本計画に基づく取組み状況の情報発信(検討・実施)									
	「のるっちゃ」、「ちかてつさんぽ」による情報発信									
これまでの取組み状況	【のるっちゃ(※1)】 交通局の経営状況やイベント情報等を掲載する広報紙「市バス・地下鉄かわらばん のるっちゃ」を年4～5回発行し、バス車内や駅構内、区役所等で掲出している。令和5年度はイベント情報やコラム(市バスの干支動物ステッカー)、経営計画の見直し(仙台市交通事業経営検討委員会)、南北線新型車両3000系の紹介とグッズ販売、市バス運転手の採用募集などを掲載した。									
	【ちかてつさんぽ(※2)】 ・「ちかてつさんぽ」の年6回の発行に協力									
	【経営状況・本計画取組みの進捗状況】 市バス・地下鉄の業績ハイライト(※3)や、本計画の年度計画、実績評価(※4)を交通局ウェブサイトで公表し、経営状況や経営計画の進捗状況について情報発信を行っている。									
	【icscaに関する情報発信】 ・令和5年度より、icscaのご案内はウェブサイトをご覧いただくことを基本とし、窓口で配布している冊子状の印刷物をリーフレット状のものへ置き換えた。									
	【X(@sendaishi_kotu)】◆1-2-3に関連記載 【市バス・地下鉄ガイド】 ・令和5年度に市バス・地下鉄ガイドの大幅リニューアルを実施。									

【年度計画及び実績】

課題	・交通局の取組みや経営検討委員会(◆4-1-21に関連記載あり)の議事内容等についてわかりやすい情報発信が必要。		
実施内容	・本計画に基づく取組み状況についてウェブサイト等での情報発信を行う。 ・「のるっちゃ」「ちかてつさんぽ」でわかりやすい情報発信を行う。 ・市バス・地下鉄の利用促進に関する広報を適宜行う。【新】 ・地下鉄に関するデータ(駅の位置・平成19年度以降の駅ごとの乗車人員)の仙台市オープンデータカタログサイトへの公開を継続する。◆2-1-6に関連記載	数値目標	・「のるっちゃ」を年5回発行する。 ・「ちかてつさんぽ」の年6回の発行に協力する。
	予定	実績	
上期	【本計画の情報発信】 ・9月 モニタリング指標及び令和4年度計画実績の公表 ・9月 昨年度の乗車人員データをエクセルデータとして公開するとともに、新たに駅時刻表データもエクセルデータとして公開する◆2-1-6に関連記載	【本計画の情報発信】 ・9月 モニタリング指標及び令和5年度計画実績の公表	
下期	【本計画の情報発信】 ・12月 令和6年度計画(修正があった場合)の公表 ・3月 令和7年度計画の公表	【本計画の情報発信】 ・12月 令和6年度計画(修正)の公表 ・3月 令和7年度計画の公表	
定期的な取組み	・「のるっちゃ」の発行(計5回) ・「ちかてつさんぽ」発行(計6回)への協力 ・交通局ウェブサイトによる経営改善に向けた取組みの情報発信 ・Xによる情報発信 ・市バス・地下鉄の利用促進に関する広報を実施 ・icscaに関する「ご利用ガイド」「早わかりガイド」の改訂検討	・「のるっちゃ」の発行 ・「ちかてつさんぽ」発行(計6回)への協力 ・交通局ウェブサイトによる経営改善に向けた取組みの情報発信 ・Xによる情報発信 ・市バス・地下鉄の利用促進に関する広報を実施 ・icscaに関する「ご利用ガイド」「早わかりガイド」の改訂検討	

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・仙台市交通事業経営計画の実績・評価確定時及び年度計画策定時に適宜公表を行った。 ・「のるっちゃ」について、予定通り発行した。 ・「ちかてつさんぽ」の年6回の発行(上期3回、下期3回)に協力し、地下鉄に親しみをもっていただくよう、沿線情報のほか、交通局からのお知らせ等の情報を発信した。	数値目標の達成状況	・「のるっちゃ」を年5回発行した。 ・「ちかてつさんぽ」の年6回の発行に協力した。
次年度に向けて	交通局の最新情報について、引き続き適切な広報を行っていく必要がある。				

【備考】

※1「のるっちゃ」のバックナンバーについては、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト「市バス・地下鉄かわらばん「のるっちゃ」を発行します!」	
※2「ちかてつさんぽ」とは、河北ウィークリーせんだいの別冊で、地下鉄各駅の構内等で配布されているフリーペーパーです。 下記企画・編集会社のウェブサイトから現在配布されている冊子をデータで閲覧できます。 <u>【株式会社アドコーポレーション】(外部サイトを表示します)</u>	
※3 市バス・地下鉄の業績ハイライトについては、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト「市バス・地下鉄の現状」	
※4「仙台市交通事業経営計画」の年度計画・実績評価については下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト「仙台市交通事業経営計画2021-2030(令和3～12年度)」	

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-4(システム)	分類	共通	担当課	運輸サービス課、輸送企画課	戦略	快適なお客さまサービスの提供	年度	R6	
取組	乗車サービスの向上				個別取組	「知りたい」に答える情報提供の充実(システム関係)				
概要	交通局ウェブサイトやTwitter(@sendaishi.kotu)等を活用し、市バス・地下鉄の運行情報を手軽にわかりやすく提供するほか、「せんだい市バス・地下鉄ナビ」(※1)「どこバス仙台」(※2)の検索機能の改善を検討します。また、オープンデータの推進により、民間の経路検索ウェブサービスやスマートフォンアプリにける市バス・地下鉄情報の充実を促していきます。このほか、経営状況や本計画に基づく取組みの進捗状況についても丁寧に情報発信していきます。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定	市バス運行情報の提供									
	どこバス仙台の機能改善検討・実施									
これまでの取組み状況	【令和3年度】 ・せんだい市バス・地下鉄ナビの運用。 ・どこバス仙台の機能拡張を検討。 ・どこバス仙台アクセス数3,018,765件/年									
	【令和4年度】 ・せんだい市バス・地下鉄ナビの運用。 ・バス停時刻表にどこバス仙台の二次元バーコードを掲載し、読み込むとそのバス停へのバス接近情報が表示されるよう改良。 ・どこバス仙台のモニタアンケート調査を実施して、提供情報の満足度等を確認。 ・どこバス仙台を機能改修し、英語でのご案内を開始。 ・どこバス仙台アクセス数3,409,921件/年(令和3年度比約13%増)									
	【令和5年度】 ・せんだい市バス・地下鉄ナビの運用。 ・どこバス仙台の機能拡張を検討。 ・リアルタイムデータ(GTFS-RT)の公開方法を検討。									

【年度計画及び実績】

課題	・バス利用を促進するため、便利で使いやすい運賃等検索サービスを提供する必要がある。 ・どこバス仙台の改修内容によっては多額の費用が発生する場合がある。 ・オープンデータについて、データ内容に関する諸課題（実運用と一部齟齬が生じている等）を解消する必要がある。		
実施内容	・せんだい市バス・地下鉄ナビ、どこバス仙台の運用。 ・どこバス仙台の機能改修については、費用対効果も重視しながら、引き続き検討を行う。 ・オープンデータを活用した民間サービスによる利便性の向上を目指し、リアルタイムデータ（GTFS-RT）を含むオープンデータの公開に向け、関係する諸課題の解決方法を検討する。（◆2-1-6（バス）に関連記載あり）	数値目標	
	予定	実績	
上期	・リアルタイムデータを含むオープンデータの公開に向けた諸課題の解決方法を検討【新】	・オープンデータ（GTFS-JPデータ・GTFS-RTデータ）に関する諸課題を解決済	
下期	・リアルタイムデータを含むオープンデータの公開に向けた諸課題の解決方法を検討 ・公共交通オープンデータ協議会においてリアルタイムデータ（GTFS-RT、GTFS-JP）を公開	・公共交通オープンデータ協議会におけるオープンデータ（GTFS-RT、GTFS-JP）の公開について、GTFSデータ出力の際の課題を洗い出し、その解決に向けた検討を行った。	
定期的な取組み	・関係部署・バスロケーションシステム開発業者とのサービス拡張案についての検討 ・どこバス仙台機能改修の検討	・データ出力のための機能改修の検討を行った。	

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・公共交通オープンデータ協議会におけるオープンデータ（GTFS-RT、GTFS-JP）の公開について、GTFSデータ出力の際の課題を洗い出し、その解決に向けた検討を行った。	数値目標の達成状況
次年度に向けて	GTFSデータ出力に関する課題が解決次第、公共交通オープンデータ協議会におけるリアルタイムデータ（GTFS-RT、GTFS-JP）の公開を令和7年度上期中の早い段階で行う。			

【備考】

- ※1「せんだい市バス・地下鉄ナビ」とは、市バス・地下鉄の時刻表や運賃、乗換案内などを交通局ウェブサイト内で提供している検索システムです。詳しくは、下記リンクよりご確認ください。
[仙台市交通局ウェブサイト「せんだい市バス・地下鉄ナビ」](#)
- ※2「どこバス仙台」とは、市バスの接近情報等をインターネットを通じて確認することができるシステムです。詳しくは、下記リンクよりご確認ください。
[仙台市交通局ウェブサイト「どこバス仙台」](#)
- ※3「動的データ」は、遅延状況や到着予測、車両位置等の運行情報をリアルタイムで情報提供する国際的な情報フォーマットのことで。

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組概要】

番号	2-1-5		分類	共通	担当課	総務課、運輸サービス課、安全推進課	戦略	快適なお客さまサービスの提供			年度	R6
取組	乗車サービスの向上				個別取組	お客さまの声を大切にしたい事業運営						
概要	日々の運行においてバス運転手や駅務員に対してお客さまから頂戴する苦情や賞揚等、様々なご意見について、組織的に共有し、事業運営の改善に活用します。 また、お客さまが交通局への意見や質問等を気軽に問合せできるよう、交通局ウェブサイト内に問合せフォームを設置し、回答を希望されるお客さまには必ず回答を差し上げるとともに、ご意見を今後の事業運営の参考とする等、お客様の声に積極的に対応していきます。											
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
予定	「お客様の声」の回答、活用											
これまでの取組み状況	・交通局ウェブサイト内に問合せフォームを設置し、お客さまからのご意見を収集し、内容に応じて担当課へ共有を行っている。 ・寄せられた意見を分析し、局内各課へ共有、意見交換を行い、事業改善に繋げている。 ・ご意見等を踏まえた改善事例を局ウェブサイトに掲載する。											

【年度計画及び実績】

課題	「お客様の声」の年間受付件数2,019件中、苦情・意見・要望等は1,613件であり全体の約8割を占める(令和5年度)。お客さまからのご意見等に対し、速やかな対応と業務への反映が必要である。		
実施内容	・お客さまからご意見等を頂戴し、速やかに担当課を割り振り、適切な対応を依頼する。 ・年に1回、お客さまのご意見等に関する実績をとりまとめ、局内各課に共有する。 ・バス・地下鉄に関するご意見の分析を行い、事業の改善を行う。 ・ご意見等を踏まえた改善事例を局ウェブサイトに掲載する。	数値目標	苦情等の件数を前年度以下にする。
	予定		実績
上期	・7月 「お客様の声」(前年度)の実績とりまとめ、局内共有	・上期にバスに寄せられた「お客様の声」のうち、運転マナー・接客サービス等に関するものについて取りまとめ、毎月実施されるJR・宮城交通との会議において情報を共有した。 ・6月 安全マネジメント会議において「お客様の声」(5年度)の実績とりまとめ、局内共有した。	
下期	・12月 ご意見等を踏まえた改善事例を局ウェブサイトに掲載	・3月 ご意見等を踏まえた改善事例を局ウェブサイトに掲載 ・下期にバスに寄せられた『お客様の声』のうち、運転マナー・接客サービス等に関するものについて取りまとめ、毎月実施されるJR・宮城交通との会議において情報を共有した。 ・令和6年度4月から12月までに受付したお客様の声の集計を行い、次年度の実施計画に反映させた。	
定期的な取組み	・「お客様の声」への回答等 ・ご意見の分析、事業改善の検討		・「お客様の声」への回答等 ・ご意見の分析、事業改善の検討を適宜実施し、マナー啓発活動等に反映

【令和6年度評価】

評価	○	進捗状況・評価の説明	・数値目標は惜しくも達成することができなかったが、お客様からの意見により業務の改善を行うなど、速やかかつ積極的に対応することができた。 ・自動車部に寄せられた「お客様の声」のうち、運転マナー、接客サービス等に関するものについて取りまとめ、毎月実施しているJR・宮城交通との会議において情報共有し、研修会等で活用することにより運転マナー、接客サービス向上に努めた。	数値目標の達成状況	「お客様の声」の年間受付件数2,006件中、苦情・意見・要望等は1,620件(全体の約8割)であり、前年度1,613件より7件多かった。
次年度に向けて	・お客様から改善の要望が含まれる意見の対応について積極的に検討していく。 ・引き続き「お客様の声」を活用し、運転マナー・接客サービス向上に努める。				

【備考】

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-6(バス)		分類	共通	担当課	運輸サービス課、輸送企画課		戦略	快適なお客さまサービスの提供		年度	R6
取組	乗車サービスの向上				個別取組	オープンデータの推進						
概要	市バス・地下鉄に関するデータをオープンデータ化し、公共データの利活用を促進することで、MaaS(※1)の推進等を図っていきます。市バスの系統・停留所等の情報のほか、バスロケーションシステムによるリアルタイムの運行情報についてもオープンデータ化を検討します。											
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12		
予定	オープンデータ公開等											
	・静的データ 公開(※2)											
		運行情報のオープンデータ化・公開										
	これまでの取組み 状況	【令和3年度】 ・市バスの静的データ(停留所、発時刻、運賃等)の公開開始(GTFS-JP形式により「仙台市オープンデータカタログサイト」(※4)に掲載)。 ・オープンデータ(GTFS-JP、GTFS-RT)の出力方法を検討。 【令和4年度】 ・市バスの静的データの公開継続。 ・バスロケーションシステムを改修してオープンデータ(GTFS-JP)の出力を実施。 【令和5年度】 ・市バスの静的データの公開継続。										

【年度計画及び実績】

課題	・民間企業の地図アプリ・乗換案内サービス等にも市バス運行情報を反映できる環境を整え、更なる利便性向上を図る必要がある。 ・オープンデータについて、データ内容に関する諸課題(実運用と一部齟齬が生じている等)を解消する必要がある。		
実施内容	・市バスの静的データ(停留所、発時刻、運賃等)の公開を継続する。 ・オープンデータの公開に向けた諸課題の解決方法を検討する。		数値目標
	予定		実績
上期	・オープンデータの公開と民間活用等に関する課題解決方法を検討【新】 ・公共交通オープンデータ協議会(※5)加入準備【新】 ・ダイヤシステム改修【新】		・オープンデータ(GTFS-JPデータ・GTFS-RTデータ)に関する諸課題を解決済 ・公共交通オープンデータ協議会加入準備 ・ダイヤシステム改修完了
下期	10月 ・運行情報外部出力設定業務委託【新】 ・公共交通オープンデータ協議会加入 12月 ・オープンデータ化・公開【新】 公共交通オープンデータ協議会においてリアルタイムデータ(GTFS-RT、GTFS-JP)を公開		11月 ・運行情報外部出力設定業務委託【新】 ・公共交通オープンデータ協議会加入
定期的な取組み	・国内他事業者における動的データの先行事例を調査 ・運行情報のオープンデータ利用について推進していく。		・国内他事業者における動的データの先行事例を調査

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・ダイヤシステムの改修が完了した。 ・公共交通オープンデータ協議会に加入をした。 ・公共交通オープンデータ協議会におけるリアルタイムデータ(GTFS-RT、GTFS-JP)の公開について、GTFSデータ出力の際の課題を洗い出し、その解決に向けた検討を行った。	数値目標の達成状況
次年度に向けて	GTFSデータ出力に関する課題が解決次第、公共交通オープンデータ協議会におけるリアルタイムデータ(GTFS-RT、GTFS-JP)の公開を令和7年度中に行う。			

【備考】

※1「MaaS」とは、スマートフォン等で目的地までのルートや移動手段、さらには街なかの飲食店・イベント等の検索・予約・決済に至るまでを一括して行える仕組みです。
 ※2「静的データ」は、時刻表や運賃、路線、便情報といった固定的なデータの国際的な情報フォーマットのことで、
 ※3「動的データ」は、遅延状況や到着予測、車両位置等の運行情報をリアルタイムで情報提供する国際的な情報フォーマットのことで、
 ※4「仙台市オープンデータカタログサイト」とは、仙台市が保有する情報のオープンデータ化を推進するための基盤として、仙台市公式ホームページ内に開設されたポータルサイトのことで、詳しくは、下記リンクよりご確認ください。
[仙台市ウェブサイト「仙台市オープンデータポータル」\(外部サイトを表示します\)](#)
 ※5 先進的な公共交通サービスを実現するため複雑な日本の公共交通のデータ流通プラットフォーム構築を目指し、公共交通事業者、ICT事業者が中心となり構成される、産官学連携の協議会。

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-6(地下鉄)	分類	共通	担当課	営業課		戦略	快適なお客さまサービスの提供		年度	R6
取組	乗車サービスの向上			個別取組	オープンデータの推進						
概要	市バス・地下鉄に関するデータをオープンデータ(※1)化し、公共データの利活用を促進することで、市バス・地下鉄利用の促進やMaaS(※2)の推進等を図っていきます。 市バスの系統・停留所等の情報のほか、バスロケーションシステムによるリアルタイムの運行情報についてもオープンデータ化を検討します。										
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
予定	地下鉄に関するデータのオープンデータ化の実施										
これまでの取組み状況	【令和3年度～】 ・地下鉄に関するデータ(駅の位置・平成19年度以降の駅ごとの乗車人員)を仙台市オープンデータカタログサイト(※3)に公開										

【年度計画及び実績】

課題	誰もが自由に利活用できるようにオープンデータを公開する必要がある。		
実施内容	地下鉄に関するデータ(駅の位置・平成19年度以降の駅ごとの乗車人員)の仙台市オープンデータカタログサイトへの公開を継続する。	数値目標	
	予定	実績	
上期	・9月 昨年度の乗車人員データをエクセルデータとして公開するとともに、新たに駅時刻表データもエクセルデータとして公開する	9月 昨年度の乗車人員データを公開 ※駅時刻表データの公開は下半期に行う	
下期		3月 駅時刻表データを公開	
定期的な取り組み	・地下鉄に関するデータ(駅の位置・平成19年度以降の駅ごとの乗車人員・駅時刻表)の仙台市オープンデータカタログサイトへの公開を継続する。 ・他事業者の状況も踏まえつつ、汎用性の高い形式でのデータ公開について検討する。	地下鉄に関するデータ(駅の位置・乗車人員・駅時刻表)を仙台市オープンデータカタログサイトに公開した。	

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	地下鉄に関するデータ(駅の位置・乗車人員)を仙台市オープンデータカタログサイトに継続して公開するとともに、新たに駅時刻表についても公開を行った。	数値目標の達成状況	
次年度に向けて	地下鉄に関するデータ(駅の位置・乗車人員・駅時刻表)を仙台市オープンデータカタログサイトに継続的に公開する必要がある。				

【備考】

※1「オープンデータ」とは、国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用(加工、編集、再配布等)できるように公開されたデータのことです。
 ※2「MaaS」とは、スマートフォン等で目的地までのルートや移動手段、さらには街なかの飲食店・イベント等の検索・予約・決済に至るまでを一括して行える仕組みです。
 ※3「仙台市オープンデータカタログサイト」とは、仙台市が保有する情報のオープンデータ化を推進するための基盤として、仙台市公式ホームページ内に開設されたポータルサイトのことです。詳しくは、下記リンクよりご確認ください。
 仙台市ウェブサイト[仙台市オープンデータポータル](外部サイトを表示します)

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-7	分類	バス	担当課	輸送企画課		戦略	快適なお客さまサービスの提供		年度	R6
取組	乗車サービスの向上			個別取組	定時性の向上に向けたダイヤの編成						
概要	毎年のダイヤ改正後に、運行区間ごとに利用状況や遅延状況を確認・分析し、道路渋滞等の走行環境も考慮した上で、より適切な経路や時刻設定によるダイヤ編成を実施することで、定時性や利便性、運行効率の向上を図ります。										
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
予定	定時性の向上に向けた時刻設定の検討・実施										
これまでの取組み状況	【令和3年度～令和5年度】 ・終点到着までに10分以上遅延が生じている全便を抽出し、10分以上遅延する便を年間1%以上削減するよう通過予定時刻の調整を行っている。 ・お客さまからのご意見メールや市民の声、電話での要望を踏まえ、遅延の著しい便の状況を分析し、次期ダイヤ改正時に時刻の調整を図っている。										

【年度計画及び実績】

課題	・交通量の変化、信号機の新設等により毎年通過時刻が変わるため、運行状況の詳細な分析が必要となる。 ・今後の大幅なダイヤ改正にあたっては、運行状況・利用状況等について、これまで以上に詳細かつ膨大な、いわゆるビッグデータの収集・分析を行う必要がある。		
実施内容	令和6年4月に実施したダイヤ改正後の運行状況や遅延状況を確認し、時刻表の見直しが必要となるバス停留所では次回のダイヤ改正時に実態に合わせた見直しを行い、定時性の向上を図る。	数値目標	
	予定	実績	
上期	・6～9月 現行ダイヤの運行・遅延状況の確認 現行ダイヤの課題整理 ・9月～ 次期ダイヤ改正(令和7年4月)への反映事項の整理	・6～9月 現行ダイヤの運行・遅延状況の確認 現行ダイヤの課題整理 ・9月～ 次期ダイヤ改正(令和7年4月)への反映事項の整理・検討	
下期	・10～11月 遅延の著しい路線のリストアップ ・10～11月 バス停留所通過時刻の修正 ・11～12月 次期ダイヤ改正の時刻変更・確定	・10～11月 遅延の著しい路線のリストアップ ・10～11月 バス停留所通過時刻の修正 ・11～12月 次期ダイヤ改正の時刻変更・確定	
定期的な取組み	・4～3月 運行状況の把握(運行データの収集・分析)	・4～3月 運行状況の把握(運行データの収集・分析)	

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	毎月の利用状況や遅延情報を収集し、ダイヤの見直しや時刻調整を実施した。	数値目標の達成状況	
次年度に向けて	令和7年4月ダイヤ改正後の運行状況を注視し、時刻調整について検討していく。				

【備考】

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	2-1-8	分類	共通	担当課	総務課、経営企画課、運輸サービス課、営業課	戦略	快適なお客さまサービスの提供	年度	R6	
取組	乗車サービスの向上			個別取組	子育て世代の利便性向上【追加】					
概要	子育て世代が家族で利用しやすい市バス、地下鉄のあり方を検討するとともに、子どもたちに将来にわたって利用していただけるようなきつかけづくりを行います。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定				小児運賃無料化実証実験						
				ベビーカースペースの案内整備						
これまでの取組み状況	【令和4年度】 ・ソフトバンク「タッチでメール」の実施協力開始									
	【令和5年度】 ・「小学生はじめてicscaキャンペーン」の開始 ・子育て世代の沿線居住促進につながる「仙台市若年・子育て世帯住み替え支援事業」対象者へのicscaポイント付与の開始 ・子ども連れをターゲットとした新たな運賃制度の検討（◆2-1-3(全体)、4-1-1に関連記載あり）									
	【令和5年度までの定期的な取組み】 ・「1ねんせいをはじめてきつぷ」の実施 ・市バス及び地下鉄車内でのベビーカースペースの確保 ・地下鉄仙台駅における授乳室の設置 ・環境定期券制度～休日カルガモ家族～の実施(※1)									

【年度計画及び実績】

課題	・マイカーが大半を占める子ども連れの移動について、マイカーから公共交通への転換を促す取組みが必要である。		
実施内容	・子ども連れをターゲットとした新たな運賃制度を期間限定で試験的に実施する（土日祝日限定小児運賃無料化実証実験※2）（◆2-1-3(全体)、3-1-1、4-1-1、4-1-21に関連記載あり）。【新】	数値目標	
	予定	実績	
上期	・4月 仙台駅西改札授乳室付近に「子育て応援自動販売機」を設置（◆4-1-6に関連記載あり）【新】 ・4～5月 小児運賃無料化実証実験【新】 ・7～8月 「小学生はじめてicscaキャンペーン」の実施	・4月 仙台駅西改札授乳室付近に「子育て応援自動販売機」を設置した。 ・4～5月 小児運賃無料化実証実験【新】 ・7～8月 「小学生はじめてicscaキャンペーン」の実施 7～8月の小児用icscaの発行件数は322件（キャンペーン開始前のR4年度比で1.68倍） ・8月 地下鉄車内ベビーカースペースの案内デザイン決定 ・9月～ 小児運賃無料化実証実験【新】（12月まで）	
下期	・9月 地下鉄車内ベビーカースペースの案内設置【新】 ・9～12月 小児運賃無料化実証実験【新】 ・10月 仙台市若年・子育て世帯支援事業対象世帯へのicscaポイントの付与	・10月～ 仙台駅西改札・八木山動物公園駅でのベビーカーレンタルサービス（ベビカル）開始。 ・10月～ 地下鉄車内ベビーカースペースのステッカーを掲出開始。（12月末までに南北線・東西線全編成に掲出完了） ・9～12月 小児運賃無料化実証実験【新】 ・10月 仙台市若年・子育て世帯支援事業対象世帯へicscaポイントの付与	
定期的な取組み	・市バス・地下鉄の利用促進に関する広報を適宜行う（◆2-1-4(全体)に関連記載あり）。【新】 ・ソフトバンクと連携した子ども利用促進広報	・市バス・地下鉄の利用促進に関する広報を適宜行った（◆2-1-4(全体)に関連記載あり）。【新】 ・ウェブサイトや広報誌掲載など、ソフトバンクと連携した子ども利用促進について広報を実施した。	

【令和6年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・仙台駅西改札において「子育て応援自動販売機」「ベビーカーレンタルサービス（ベビカル）」を開始した（ベビカルは八木山動物公園駅でも開始）。 ・地下鉄車内にベビーカースペースのステッカーの掲出を行った。 ・小学生はじめてicscaキャンペーンを実施し、7～8月の小児用icscaの発行件数は、キャンペーン開始前の令和4年度と比較して1.68倍に増加した。 ・仙台市若年・子育て世帯支援事業対象世帯へicscaポイントの付与を実施した。 ・小児運賃無料化実証実験をGW期間と秋季の2回にわたり実施した。見込みよりは少なかったものの、バス・地下鉄をあわせて延べ約102千人の方にご利用いただいた。	数値目標の達成状況	
次年度に向けて	・子育て世代の利便性向上に資する取り組みを継続して実施する。 ・R7年度にも小児運賃無料化実証実験を予定しており、より多くの方に利用いただけるよう、引き続き周知広報に努める。				

【備考】

- ※1 環境定期券制度～休日カルガモ家族～
土・日・休日、年末年始（12月29日～1月3日）に、市バス・宮城交通バスの定期券を持っている方が、同居する家族（5人まで）と定期券表示区間内を利用した場合に、家族が1人乗車1回につき、大人100円・小児50円（現金に限る）で利用できる制度です。
仙台市交通局ウェブサイト「環境定期券制度～休日カルガモ家族～」
- ※2 土日祝日限定小児運賃無料化実証実験については、下記リンクよりご確認ください。
仙台市交通局ウェブサイト「小児運賃無料化実証実験」